

第14回男女共同参画全国都市会議 in ながの = 印象記 =

黒沼 貞志

1 はじめに

本年度の山形市男女共同参画推進協議会の委員として市では初めての「公募」に応募して委員となったものの、小職の勝手な「想い」と委員に期待されるミッションとに温度差が大きく、せめて協議会（年3回：毎回2時間弱）で人一倍発言をさせて戴いていたところでした。

『物言えば唇寒し秋の風（だったでしょうか？芭蕉だったでしょうか？）』とはよく言ったもので、山形市の男女共同参画都市宣言5周年記念事業の実行副委員長を拝命する羽目になり、上述の温度差から来る「ここに溜まった「おり」>みたいなものの開放が少しは出来たかと思っていた折に掲題の案内が届いたわけでした。

おそらく、多くの希望者（特に女性）があるのだろうと思いつつ、念のためにと日頃お世話になっている市のご担当にお尋ねしたところ、『是非に！』と、期待に反して薦められ参加となった次第です。

2 プログラム

11月13日（木）

オープニング 12：00～

§ アトラクション

§ 主催者挨拶

§ 来賓祝辞

§ 内閣府メッセ - シ披露

基調講義 12：50～

講演 13：15～

分科会 15：05～

交流会 18：00～

11月14日（金）

全体会 9：00～

§ 分科会報告

§ パネルディスカッション

閉会 11：30

3 会議概観

（1）オープニング：このように各地で開催される各種イベント事業のマニュアルに違わず「長野」のアピールアトラクションとそれに続く形通りに沿ったものでした。

（2）基調講義：内閣府審議官による「男女共同参画社会の形成に向けて - 最近の動向と国の施策について -」も型通りで、参加者（意識をお持ちの参加者にとって既にインプットされている情報ではないのだろうか？）といった印象。

（3）講演：「共生時代のパートナーシップ」

吉永みち子氏

実に示唆に富む、且つ、実人生に裏打ちされた内容でこの席に拘束された価値があったと感じさせられる1時間半でした。

（4）分科会：第2分科会「地域における男女共同参画の推進について」

最も参加希望が多かった分科会（一般+行政だったためでしょうか？）で事例紹介と質疑といった流れでの進行。

（5）交流会：歓迎アトラクション（善光寺木遣り）と型通りの立食パーティー。

分科会で知り合った隣席の福島からの参加者と山形市の斎藤男女共同参画センター所長くらいしか顔見知りがないため（行政の方々は別でしょうが）、身の置き所に苦慮したといったところです。交流効果を考えるなら参加人数なども考慮した工夫が必要という印象。

（6）全体会：特に「パネル・ディスカッション」は進行に参加者を巻き込むそれなりの工夫がされており参考になりました。

4 個別レポート

印象に残ったところに限定して個別レポート（メモ）といたします。

（1）基調講義：「男女共同参画社会の形成に向けて - 最近の動向と国の施策について -」

内閣府大臣官房審議官（男女共同参画局担当）

土肥原 洋氏

* 人権の尊重・豊かで活力のある社会を目指し

4年まえに男女共同参画社会基本法制定

*未達成課題:

- ・不平等感(女性75%、男性70%)の払拭
- ・雇用労働面:女性の賃金男性の60%
労働力率:M字型
女性管理職比率(民間10%、国家公務員1%、USA40%台)
- ・育児・家事への男性の参加率
- ・ジェンダーエンパワーメント指数

*男性のリスクも上がっている

- ・中高年男性の自殺:5年連続で3万人超という現実
- ・中学生(東京都)の3割強が将来展望が持てない現状

*国としての解決策:

- ・推進本部体制 男女共同参画参画会議(12人の有識者+閣僚)を年4回
これには絶望的といった印象を持ちました。

従来の解決手法の域(有識者で実践現場をわかっている人は稀有)ではこれからの時代にフィットした解決手段の提起は無理で、しかもその実行が出来ないのは自明と思います。

(2)講演:「共生時代のパートナーシップ」

吉永 みち子氏

*パートナーシップ=対等な協力関係

*「自分らしさ」を意識して保有することが大事

- ・性別役割分担の歴史が長かった!
- ・自分(吉永さん)の個人の歴史の事例は面白く示唆に富んでいた
- ・性を理由に様々な(職業など)バリアー、ハードルが逆にバネになった
- ・超高度社会を男性のみが支えてきたこれまでの時代 この「つけ」は大きい
- ・自分探しでは女性が「先輩」

・男が「自分らしさ」を語らない、語れない

(過去も現在も)



「自分らしさ」あつての「共生時代」

*参画は決定権を持ってそこにいるということ
参加だけならサルでもできる(笑い)

・「社会」は共同参画が法でカバーされつつある

・「個人(プライベート)領域」は関係性が共同参画である点がポイント

*男のための地域社会の共同参画の仕組みづくりが今後の大きな課題

*多様な生き方=個性差が輝く、活かせるパートナーシップ

(3)第2分科会「地域における男女共同参画の推進について」

*静岡市から「人材育成事業と地域活動についてーアイセル女性カレッジの取り組みー」について、事例発表&質疑

・パートナーシップの3本柱:「公助」「自助」「協(共)助」(これはイタダキ!:笑い)

*佐賀市から「4/14さが発パートナーデーの取り組み」について、事例発表&質疑

5 最後に一言

時代の変化はますますスピードアップしております。

山形市は基本法法制化の1年前に「男女共同参画都市宣言」をした先進都市の自負があるわけですから、小職が協議会にて発言させて戴いておりますように5周年の総括をして「男女」という枠組みを超える概念(パラダイムシフト)=例えば「個性差」に視座を置くような(きしくも、吉永みち子氏も同様に発言されておられました「自分らしさ=個性差」)新たな方向性を見出す必要があるという<想い>を今回の会議への参加で改めて強くしました。